

手話で楽しく交流

函館聾学校（飯出広行校長）と駒場小学校（石川朋美校長）は2月20日、総合的な学習の一環として、聾学校で交流会を行った。交流会は初の取り組みで、両校の児童はジェスチャーゲームをするなどして交流を深めた。

交流会は相互理解が狙いで、聾学校は小学部1〜5年生の5人、駒場小は4年生26人が参加した。

駒場小の児童は2グループ

函館聾学校と駒場小児童

に分かれ、聾学校内を見学し、授業の様子を学んだ。その後、体育館に集まり、聾学校の児童5人と指文字や手話を学んだり、ジェスチャーゲームをしたりして楽しみながら交流した。

駒場小4年を代表し、松岡梨愛さん（10）が「今回はとてもいい勉強になった。これからは手話を使いたい」と聾学校の児童に感謝を伝えた。

（小笠原拓也）



手話で交流する両学校児童